博物館における広報活動

－立山博物館の現状と課題－

青木正邦*

はじめに

近年生涯学習への関心が高まり、その中で博物館へ寄せられる期待も多様化してきている。博物館は社会に対して情報を伝えることによって、生涯学習の場としての役割も果たしているのである。

当館は、生涯学習の重要な拠点の一つとして、平成３年にオープンし、本年度で５年が経過した。これまでは、利用者の当館に対する理解と利用者の拡大を図るため年２回の特別企画展をはじめ、様々なイベントの企画、ボランティア・友の会の設立などの活動を展開してきた。

しかし、資料調査で県内の各地に行くと「立山博物館はどこにあるのですか」「博物館にはどんな施設がありますか」という質問をよく受ける。また、県外の観覧者からも「ユニークな施設であるので、もっと全国的にＰＲをしたらいいのでは」という声もかなり多い。つまり、県内外ともにまだまだ当館が周知されていないのである。また、各イベントを実施すると、当館に関係している人は多く参加するが、それ以外の一般市民の参加が少ない。これは、博物館の広報の基本である社会に対しての情報の発信方法の工夫が乏しかったこと、そして現在までの広報活動の総合的なチェックがなされていなかったことが原因であると考えられる。

そこで、本稿では当館の広報活動の現状と課題を把握し、パブリシティのしかたを中心とした、今後の広報活動のあり方を考えてみたい。

1　広報活動の現状と課題

広報活動のあり方を考えるにあたり、まず当館の現状と課題を整理してみることにする。当館が現在行っている広報活動は、図１の広報活動基本計画のとおりであり、対象によって広報の手段や方法に違いがある。なお、対象は、一般市民、博物館・大学関係、

＊ 富山県［立山博物館］

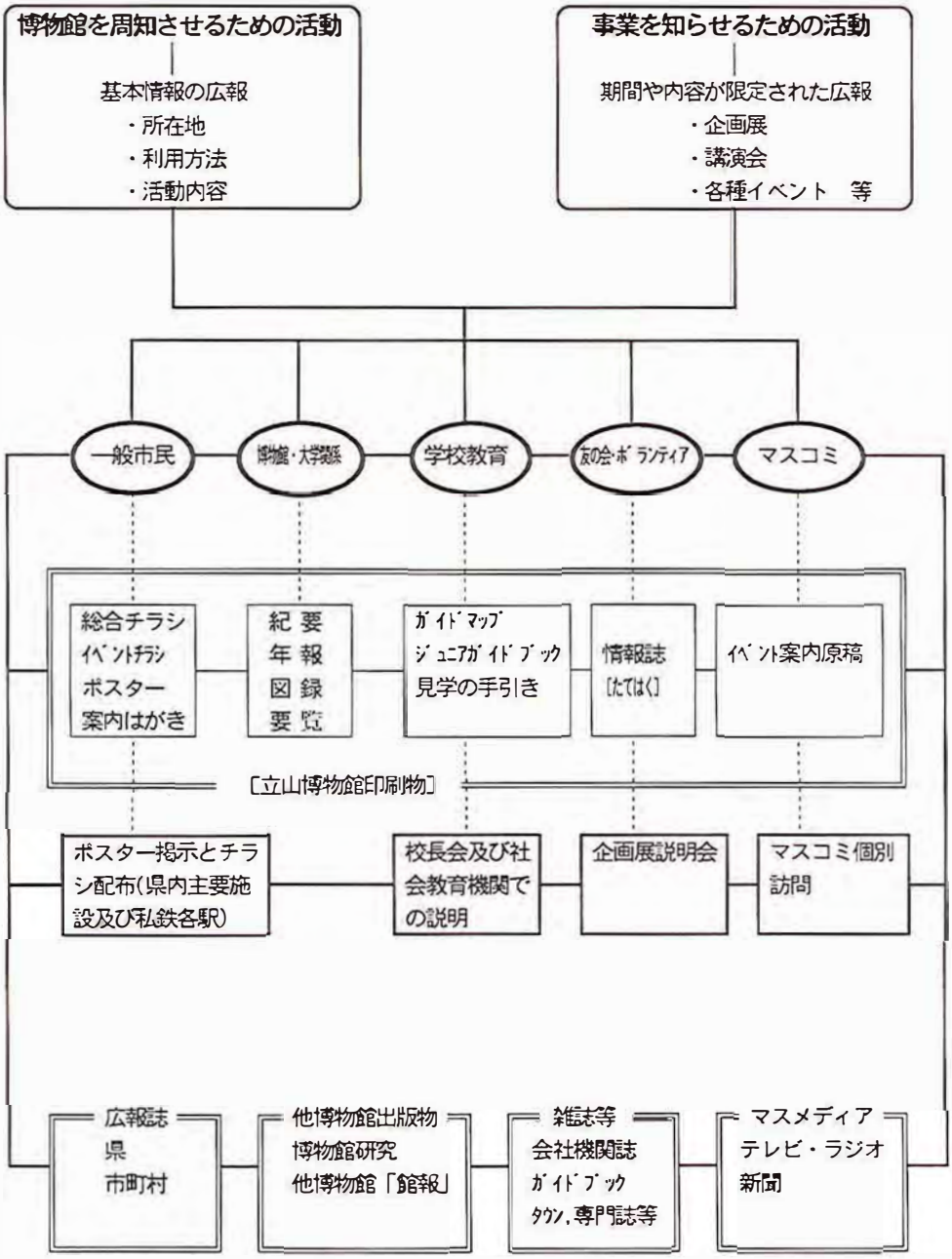

図1　平成8年度立山博物館広報活動基本計画

学校教育機関、友の会・ボランティア、マスコミにわけて考え、内容は以下のとおりである。

1.1　広報活動の現状

(1)一般市民

広報活動の中心である一般市民への広報は、主としてポスター、チラシ等の印刷物と新聞・テレビなどのマスメディアを通して行っている。また、当館の存在を広く知らしめるために、毎年4月に、「立山博物館総合チラシ」を県の各機関や当館周辺施設に配布している。さらに、旅行ガイドブックや企業の機関誌等の取材にも積極的に情報を提供している。一方、イベント等の情報は、「チラシ」を配布したり、県の広報課が行っている新聞、テレビ、ラジオ、広報誌などによる「県からのお知らせ」[5]の広報を活用している。しかし、1年間の計画的な事業案内や、事業の報告、成果を知らせるなどの、パブリシティのしかたはまだまだ低調である。

(2)博物館・大学関係

当館における研究活動に関する情報を、他博物館の関係者および大学研究者などに、「研究紀要」「企画展図録」「年報」「ポスター・チラシ」「情報誌たてはく」などの出版物を送っている。その他、日本博物館協会の機関誌「博物館研究」への行事予定の報告なども行っている。しかし、当館では博物館相互の情報交換を図るシステムが確立していないため、他館の情報は一人一人の個人情報にたよっている状態である。

(3)学校教育機関

県内の小・中学校や高校への広報活動は計画的に行っている。活動内容は、図2の平成8年度県内教育機関広報活動計画に示されているように、「校長会での説明」「社会教育機関での説明」「ジュニアガイドブックの配布」「見学の手引きの配布」「ゴールデンウィーク前の総合案内チラシの配布」などである。また、県内の学校利用状況については「2.広報活動の実際」で述べているが、地域によって、また小学校と中学校、高校との間の利用差がある。これは、中学校、高校・養護学校では博物館教育に対する認識の違いがあるにもかかわらず、その実態を把握した広報活動がなされていなかったためと考えられる。

(4)友の会・ボランティア

現在友の会、ボランティアの会員は各100名程度である。それぞれの会員には、「イベントの案内チラシ」や「情報誌たてはく」の配布、特にボランティアには、企画展期間中に「企画展説明会」を実施している。このように、友の会・ボランティアの各会員に

【校長会での説明】

学校教育機関への働きかけ

小・中・高校長会	日時・場所・当館説明者	備　　考
高校協会主催 第１回校長会	５月１５日（水）１１：００ 富山県教育記念館 担当：館長、青木主任	寺井主任 資料数：８０
教育事務所主催 第１回小・中校長会		
・魚津教育事務所	４月１８日（木）１６：４０ 魚津職業訓練センター 担当：米原課長、木本主任	神保主任指導主事 資料数：小43＋中10＋20　計 73
・富山教育事務所	※資料を市町村の各学校の棚に入れる 担当：青木主任	連休前に資料配布 資料数：小100＋中33＋30　計163
・高岡教育事務所	４月１８日（木）１３：００ 高岡総合庁舎 担当：館長，青木主任	吉村主任指導主事 資料数：小68＋中25＋30　計123
・砺波教育事務所	４月１７日（水）１５：３０ 砺波総合庁舎 担当：館長，青木主任	福富主任指導主事 資料数：小29＋中18＋20　計 67

ジュニアミュージアム講座の実施
見学の手引き、総合案内チラシ、ジュニアガイドブック等の配布

社会教育機関への働きかけ

国立立山少年自然の家「合同事前打ち合わせ会」広報活動

	【期　日】	【対　象】	【担　当】
第１回	４月１９日（金）	５・６月利用団体	青　木
第２回	５月３１日（金）	７月利用団体	青　木
第３回	７月　５日（金）	８月利用団体	青　木
第４回	７月２６日（金）	９・10月利用団体	青　木
第５回	１２月　６日（金）	１、２月利用団体	青　木

文部省登山研修所「研修会」「講習会」広報活動

【研修・講習会名】	【期　日】	【参加者】	【担　当】
○大学山岳部リーダー研修会	春山：５月１３日（土）	大学生	青　木
	夏山：８月２４日（木）	大学生	青　木
	冬山：３月　１日（金）	大学生	青　木
○雪上技術講習会	５月２４日（木）	大学生、一般	青　木
○岩登り講習会	７月２５日（木）	大学生、一般	青　木
○山岳スキー講習会	２月１３日（木）	大学生、一般	青　木

図２　平成８年度県内教育機関広報活動計画

は定期的に情報提供をしている。しかし、各会員から一般の人への働きかけなどの広報活動システムがまだ確立されていない。

(5)マスコミ

新聞・テレビ・ラジオ・雑誌などのマスコミには、県の広報課からの案内以外に、博物館から定期的に事業案内の情報を提供し、取材記事の掲載・案内機会を得るようにしている。情報提供の方法は、テレビ・ラジオ局、新聞社への個別訪問と、これまでに取材等で関係した担当者に資料を郵送している。年2回の特別企画展がある時は、内見会として館長、担当学芸員がマスコミ関係者に事前に説明する機会を設けている。表1は平成7年度新聞・雑誌・機関誌等に掲載された立山博物館関連記事一覧[2]である。この表からもわかるように、年間の各事業に対しての広報はなされているが、博物館全体の周知に関する広報は少ない。これは、マスコミ対応をはじめとした広報情報管理システムの確立がなされていないことが原因であると考えられる。

1.2　広報活動の課題

1.1の現状から当博物館の抱える課題は、以下のようにまとめることができる。

○広報の館内体制の確立

・博物館理解の構築

・対象者を考えた広報活動計画の構築

・多彩なパブリシティの展開

・広報活動の評価

○広報の情報管理システムの確立

・インターネットと結んだ広がりのある情報システムの開発

・資料等の情報管理システムの確立

・情報のデーターベース化などネットワーク構築システムの開発

・博物館利用状況のデーターベース化と分析

・社会教育機関との相互協力体制の充実

2　広報活動の実際

2.1　イベントと学校教育における広報活動の事例

1の広報活動の現状から、今回は1.2の課題の中の「対象者を考えた広報活動」「多彩なパブリシティの展開」を今年度実施した山岳映像イベントで、また、「博物館利用状

表1－1　平成7年度立山博物館関連記事一覧

博物館行事	掲載日	記事タイトル等	写真	掲載媒体	媒体数	内容
	95/04/01	立山の歴史を知るビックな博物館（るるぶ富山）	2	情報誌	1	施設紹介
	95/04/01	立山博物館野外施設（とやまの土木）	1	情報誌	1	施設紹介
	95/04/05	「ボランティア養成講座」受講者募集		新聞地方	2	案内記事
	95/04/17	「ボランティア養成講座」開講		新聞地方	1	報告記事
	95/04/21	安らぐレジャー、文化の拠点	1	新聞地方	1	施設紹介
	95/05/05	入館50万人突破	1	新聞地方	2	報告記事
	95/05/20	「立山室堂」国の重要文化財に	1	新聞地方	1	関連記事
	95/05/25	7月に野外施設オープン		新聞地方	1	案内記事
	95/05/25	「まんだら遊苑」7月オープン	1	新聞地方	1	案内記事
	95/05/31	立山の日本カモシカ「サチ」	1	新聞地方	2	報告記事
	95/06/06	古代史 散策シリーズ完結に寄せて	1	新聞地方	1	その他
6/16特別企画展内見会	95/06/15	あの世		新聞西日本	1	関連記事
6/17特別企画展（春季）開始	95/06/17	特別企画展一霊山巡詣　立山信仰の歴史紹介	1	新聞地方	1	案内記事
	95/06/18	特別企画展一霊山巡詣開幕	1	新聞地方	1	案内記事
6/25企画展講演会	95/06/21	立山に写真ギャラリー		新聞地方	1	その他
	95/06/21	来月オープン「まんだら遊苑」		新聞地方	1	案内記事
	95/06/30	まんだら遊苑一曼荼羅世界イメージ	3	新聞地方	3	施設紹介
7/7まんだら遊苑開苑式典	95/07/08	まんだら遊苑一五感に訴える幻想的演出	4	新聞地方	3	施設紹介
	95/07/08	県からのお知らせ一まんだら遊苑オープン	1	新聞地方	5	案内記事
	95/07/08	いきいき富山体験バス	1	新聞地方	1	報告記事
	95/07/13	ユニークな野外施設「まんだら遊苑」	6	新聞地方	1	施設紹介
	95/07/14	特別企画展一霊山巡詣	1	新聞地方	1	案内記事

表１－２　平成７年度立山博物館関連記事一覧

博物館行事	掲載日	記事タイトル等	写真	掲載媒体	媒体数	内容
7/16第5回映像&トーク	95/07/17	山男が地元で講演一映像	1	新聞地方	1	報告記事
	95/07/17	富山春秋一山岳信仰		新聞地方	1	関連記事
	95/07/20	白装束姿で修　験者 気分	1	新聞地方	1	関連記事
7/23特　別企画展終了	95/07/20	まんだら遊苑と雄山神社	1	新聞地方	1	施設紹介
	95/08/01	まんだら遊苑開苑式（県広報とやま）	6	広報誌	1	施設紹介
	95/08/01	表紙：立山博物館展示館（KNBぶる一ぱーる）	2	情報誌	1	施設紹介
	95/08/03	いきいき人一立山博物館館長	1	新聞地方	1	紹介記事
	95/08/05	まんだら遊苑にぎわう	2	新聞地方	1	施設紹介
	95/08/15	富山の神々一若手記者の修験体験	1	新聞地方	1	関連記事
	95/08/17	富山の神々一修験者 の山を行く	2	新聞地方	1	関連記事
8/28立山史跡探訪会	95/08/19	富山の神々一修験者の山を行く	2	新聞地方	1	関連記事
	95/09/01	まんだら遊苑（県広報とやま）	3	広報誌	1	施設紹介
	95/09/01	雄大な立山と曼荼羅の世界（日本海ガスシンセシス）	9	情報誌	1	施設紹介
	95/09/04	ある再会		新聞地方	1	関連記事
	95/09/09	立山に登る		新聞地方	1	関連記事
	95/09/10	入館者60万人突破	1	新聞地方	3	紹介記事
	95/09/10	親子で立山信仰の歴史学ぶ		新聞地方	1	関連記事
	95/09/16	「まんだら遊苑」が人気	1	新聞地方	1	施設紹介
	95/09/20	雄山神社頂上社殿一今日にも解体		新聞地方	1	関連記事
	95/09/24	大岡信さんらも賛辞	1	新聞地方	1	関連記事
	95/10/01	ナチュラリスト研修会を開催（とやま環境財団共生）		情報誌	1	関連記事
	95/10/01	特別企画展および講演会（県広報とやま）	5	広報誌	1	案内記事
10/6特　別企画展内見会	95/10/01	ふるさと歴史探訪：富山隼友電（すまいる・メッセ）	3	情報誌	1	施設紹介
10/7特　別企画展（秋季）開始	95/10/07	特別企画展一大陸のかけら富山	1	新聞地方	2	案内記事

表1－3　平成7年度立山博物館関連記事一覧

博物館行事	掲載日	記事タイトル等	写真	掲載媒体	媒体数	内容
	95/10/12	「立山」地獄」ひとり語りも―22日「地界に遊ぶ」		新聞地方	1	報告記事
10/15企画展講演会	95/10/15	天地人―大岡信		新聞地方	1	関連記事
	95/10/19	闇のファンタジー―立山博物館で22日		新聞地方	1	案内記事
10/22闇のファンタジー	95/10/23	暗や みの野外イベント―立山地獄「語り」で演出	2	新聞地方	2	報告記事
	95/10/24	歴史遺産で魅力ある　まちに	1	新聞地方	1	関連記事
	95/10/28	富山春秋―千光寺		新聞地方	1	関連記事
11/12特別企画展（秋季）終了	95/11/18	立山博物館群―自然・旅	6	新聞地方	1	施設紹介
	95/11/21	山の暮らしの中で―立山へはいけず		新聞地方	1	関連記事
	96/01/01	とや まのミュージアム（富山県人）		情報誌	1	施設紹介
	96/01/01	立山フェスティバル開催（広報たてや ま）		広報誌	1	案内記事
2/10立山のこころシンポジュウム	96/01/20	全国の博物館だより（国立科学博物館ニュース）		情報誌	1	施設紹介
2/11第6回映像＆トーク	96/02/01	シンポ、映像＆トーク（県広報とやま）		広報誌	1	案内記事
	96/02/04	10,11日に企画イベント	1	新聞地方	1	案内記事
	96/02/07	立山博物館イベント		新聞地方	1	案内記事
	96/02/08	立山博物館が山と医薬シンポ		新聞地方	1	案内記事
	96/02/11	「立山のこころ」シンポ		新聞地方	2	報告記事
2/17企画展開始	96/03/01	ミニ企画展（県広報とや ま）		広報誌	1	案内記事
3/2文化講演会	96/03/01	富山・春景を訪ねて（JR西日本ジャーニー）	1	情報誌	1	施設紹介
3/31企画展終了	96/03/03	まんだら遊苑の設計者が講演	1	新聞地方	2	報告記事

況のデーターベース化と分析」を、学校教育機関の当館利用状況を通して考えてみた。以下にその事例を整理する。

(1)山岳映像イベントの事例

①タイトル：［山岳映画の魅力ー山・人・映像］

②内　　容：立山に関係する山岳映画を紹介するとともに、映像制作プロデューサーと富山県山岳連盟副会長を講師に招き、山岳映画史を中心に、山岳映画の魅力について語ってもらう。

③年 月 日：平成８年９月20日（金）、21日（土）

④対 象 者：山全般に関心をもつ一般市民

⑤参加者数：465名（１日目230名、２日目235名）

⑥イベントの流れと広報活動：（図３）

⑦チラシ配布先と方法：（表２）

⑧主な報道記事：（図４）

⑨アンケート調査結果：（図５）、（図６）、（表３）

イベント参加者がどのような広報によって、このイベントを知ったのかをきく調査を実施した。また、その調査用紙に住所と氏名も書いてもらった。これは今後のイベント情報を知らせる重要な広報対象者となるからである。

・記入方法……会場の受付で配布し、入場前に記入する。なお、２日目の調査は、１日目に調査した参加者は除いた。

・回収状況……１日目が120名、２日目が60名。

(2)学校教育機関における事例

①対　　象：県内小学校、中学校、高校・養護学校

②期　　間：１年間

③学校教育普及活動の流れ：（図７）

④利用状況調査

県内の市町村別と教育事務所管内[3]ごとの４地区の利用状況を調査した。

・利用データー……県内市町村別利用数：（表４）
　　県内地区別利用率の推移：（図８）

・利用率……当館利用数／学校数×100＝利用率(％)

・分　析……小学校、中学校、高校・養護学校別

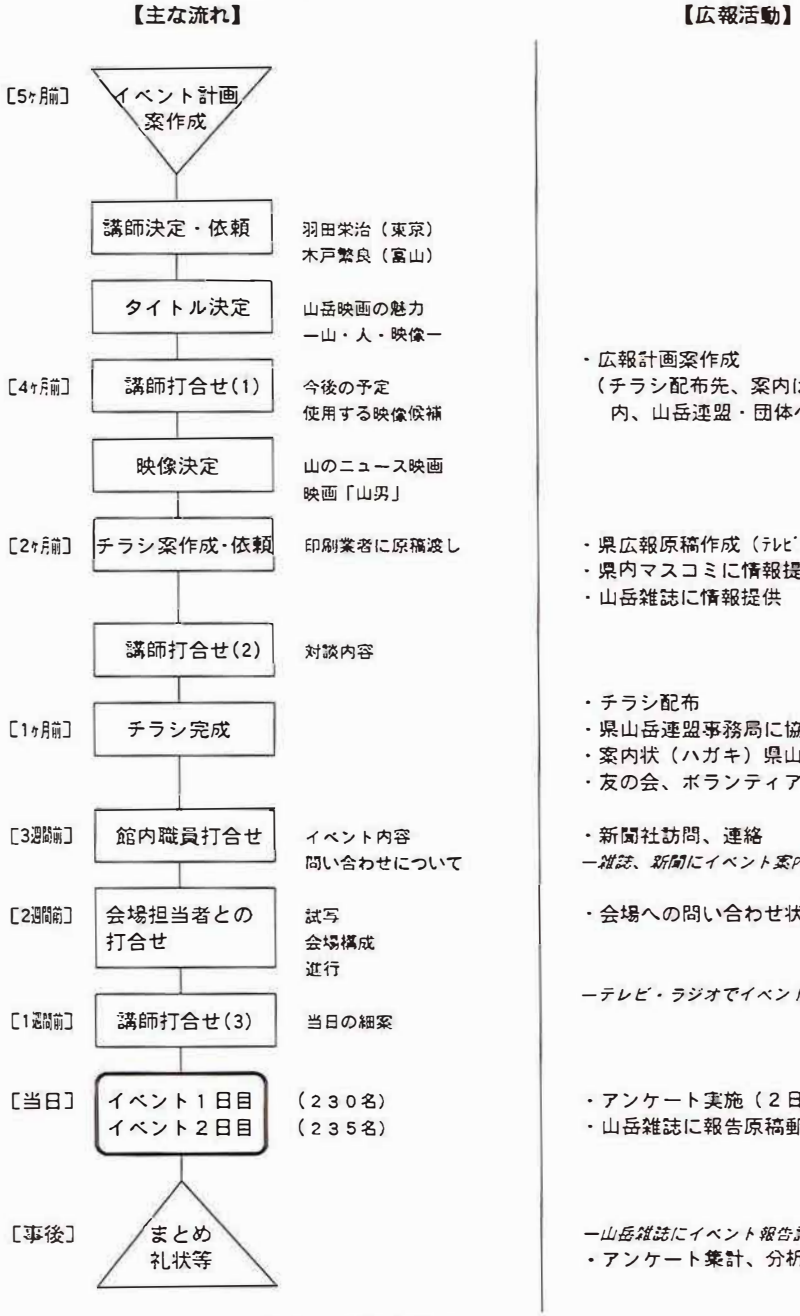

図３　山岳映像イベントの流れと広報活動

表２　山岳映像イベントチラシ配布先と方法

チラシ配布数：５０００枚

配布先	部数	訪問	電話	送付
【山岳関係団体】	(900)			
山岳写真協会	100			●
県内各山岳団体	500		△	●
県山岳連盟事務局	200	●	●	
日本山岳会	50			●
県警山岳警備隊	50	●	●	
【県内主要施設】	(1530)			
富山県文化振興財団				
関連施設				
・県民会館	100	●		
・教育文化会館	100			●
・高岡文化ホール	100			●
・県民小劇場	100	●		
・新川文化ホール	100			●
・県民カレッジ	100			●
・呉羽少年自然の家	20			●
・内山邸	20			●
・理蔵文化財事務所	20			●
・金岡邸	20			●
県内博物館	200			●
県植物園	100			●
富山県観光物産	100	●		
市民プラザ	100	●		
市民学習センター	50	●		
県立図書館	100			●
福光図書館	50			●
砺波市文化会館	50			●
富山空港	100	●		

配布先	部数	訪問	電話	送付
【県庁、役場】	(550)			
県庁各課	350			●
立山町役場	100	●		
大山町観光協会	100			●
【県内学校関係】	(100)			
県内高校	100			●
【社会教育施設】	(200)			
文部省登山研修所	100	●		
国立立山少年自然の家	100	●		
【マスコミ】	(60)			
新聞・テレビ・ラジオ	50	△	●	●
山岳雑誌社	10		●	●
【立山博物館関係】	(1660)			
芦峅寺各戸	170			●
立山博物館関係者	100			●
展示館	200			
遥望館	200			
まんだら遊苑	100			
教算坊	100			
友の会関係	100			●
ボランティア関係	100			●
今回の講師	100			●
過去のイベント講師等	50	●		
その他	440			

●……実施　△……一部実施

◆立山博物館山岳映像イベント「山岳映画の魅力―山・人・映像」20、21日、富山市のマリエとやま七階・富山県民小劇場。映像制作プロデューサーの羽田栄治氏と県山岳連盟副会長の木戸繁良氏を講師に招き、山岳映画の魅力を紹介する。

20日は午後6時半から、山のニュース映画と山岳映画「山男」を、21日は午後2時から、日本の山岳映画のパイオニア塚本関治の作品「黒部渓谷」「春の立山　大日岳」を上映する。入場無料。問い合わせは、立山博物館（☎0764・81・1216）。

『朝日新聞』　平成8年9月19日

●山岳映画とトークショウ

「山岳映画の魅力―山・人・映像」

内容＝山岳映画を上映し、その魅力と記録性について映像制作プロデューサーで山岳写真家の羽田栄治氏らが語る。

期日＝(1)9月20日(金)　18時30分～「立山にきたえる」などの上映後、羽田氏と木戸繁良氏（富山県山岳連盟）の対談。(2)9月21日(土)　14時～「黒部渓谷」などの上映後、羽田氏によるライブトーク。場所＝富山県民小劇場（富山駅前マリエとやま7F）　入場無料

問合せ先＝富山県立山博物館（☎0764・81・1216）

『山と渓谷』No.735　10月号

山岳映画紹介したい

塚本　正邦さん

山岳映画を上映するイベントを二十、二十一日に富山市のマリエとやま県民小劇場で開く。「県内では山岳映画を鑑賞する機会があまりないので、多くの方に見ていただきたい」

県立山博物館は、立山の自然や歴史、信仰などに関する資料を集めている。「映像資料は現在までに約六十本を収集し、近代登山に関するものが充実してきた。県民の関心も高いので、いい作品を紹介していきたい」と話す。

（県立山博物館学芸課主任・富山市）

『北日本新聞』平成8年9月9日

県立山博物館は二十、二十一の両日、富山市のマリエとやま七階県民小劇場で山岳映像イベント「山岳映画の魅力―山・人・映像」を開催する。

二十日は午後六時半から、山岳映画制作の第一人者として活躍している羽田栄治さんと県山岳連盟の木戸繁良副会長が対談する。続いて、昭和二、三十年代の立山ガイドを紹介した山岳映画「山男」と山のニュース映画を上映する。

二十一日は午後二時から、山岳映画の草分け時代を切り開いた塚本関治作品「黒部渓谷」「春の立山　大日岳」を上映する。

問い合わせは同博物館学芸課へ、電話0764(81)1216。

山岳映画　イベント開催

県立山博物館

『北日本新聞』平成8年9月6日

映画上映と トークショー 「山岳映画の魅力」が 行なわれる

去る9月20日、21日の両日、富山県立山博物館主催の映画と講演「山岳映画の魅力」が、富山県民小劇場で開催された。

20日は、映像制作プロデューサーで山岳写真家の羽田栄治氏と富山県山岳連盟副会長の木戸繁良氏との対談ではじまり、羽田氏が現場での体験と山岳映画の魅力を縦横に語った。第2部では、昭和36年制作の福原健司作品「山男」と「山のニュース映画」を上映した。

翌21日は、山岳映画のパイオニア塚本関治氏の足跡と山岳映画史について、羽田氏が講演。つづいて、初期の塚本作品「黒部渓谷」（昭和7年）を上映、往年の名作が銀幕に甦った。会場はかつての山岳映画全盛時代をおもわせる盛況ぶりであった。　（文と写真＝青木正邦）

山岳映画の魅力を語り合う羽田氏(右)と木戸氏

『山と渓谷』No.736　11月号

イベント案内

「山岳映画の魅力 ～ 山・人・映像」

☆日時：9月20日（金）PM6：30
・映像／「立山にきたえる」6分
記録映画「山男」53分
・トークショウ／「山のニュース映画」
記録映画「山男」と立山ガイド
・対談／羽田栄治&木戸繁良氏

☆日時：9月21日（土）PM2：00
・映像／「黒部渓谷」25分
「春の立山・大日岳」16分
・ライブトーク／「塚本関治の足跡と山岳映画史」
講師：羽田栄治氏

☆講師紹介：羽田栄治氏（協会副会長・日本山岳会フィルム・ビデオ委員長）
木戸繁良氏（富山県山岳連盟副会長）

☆会場：富山市桜町1－1－61
富山駅ターミナルビル・「マリエとやま7階」
富山県民小劇場「オルビス」
☎0764－45－4531

☆主催・問い合わせ：
「立山博物館」
☎0764－81－1216

＊北陸交部の皆さんのご来場をお待ちしています。

『日本山岳写真協会ニュース』8月号　平成8年8月15日発行

図4　山岳映像イベントの主な報道記事

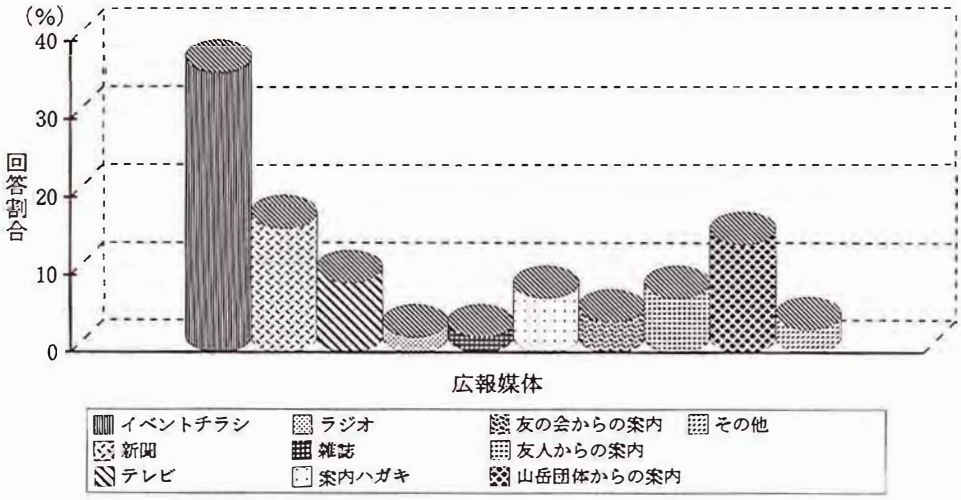

図5　イベント周知の広報媒体別分布

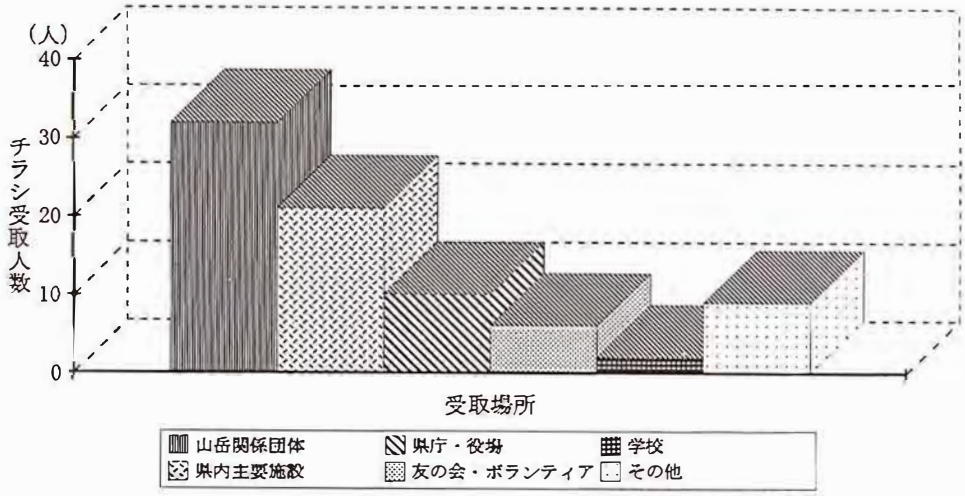

図6　イベントチラシ受け取り場所別分布

表3　イベント参加者居住地別人数

富山市	八尾町	高岡市	婦中町	新湊市	山田村	魚津市	細入村	氷見市	小杉町	滑川市	大門町
82	3	12	2	5	—	4	—	2	3	4	1
黒部市	下　村	砺波市	大島町	小矢部市	城端町	大沢野町	平　村	大山町	上平村	舟橋村	利賀村
3	1	3	—	4	1	2	—	3	—	—	—
上市町	庄川町	立山町	井波町	宇奈月町	井口村	入善町	福野町	朝日町	福光町	福岡町	記入なし
7	1	13	—	1	—	—	1	1	3	—	18

活　　動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校長会への働きかけ	●（小中）	◇（高）										
総合案内チラシ配布		◎［連休前に配布］（小中高）										
ジュニアミュージアム講座	●小	……［希望する小学校］……										●
立山少年自然の家事前打合会での説明	◎（小中高）			◎			◎	◎		◎		
文部省登山研修所での説明		◇（大）	◇		◇	◇					◇	◇
下見対応	◎（小中高）	……［希望者には各施設を案内］……										◎
イベントチラシ配布（企画展、講演会、映像イベント等）				◇（高）		◇	◇	◇				◇
ジュニアガイドブック送付	◎（小中高）	……［当館を見学する県内の学校に配布］……										◎

対象
- ●……小・中学校
- ◇……高養(大学)
- ◎……小・中・高養

図7　平成8年度学校教育普及活動の流れ

表４　県内市町村別利用数（数字は当該年度利用学校数）

地区	年度	平成５年度				平成６年度				平成７年度				平成８年度				
	市町村名/小/中/高校数※	小	中	高養	計	小	中	高養	計	小	中	高養	計	小	中	高養	計	合計
富山地区	富山市/48/18/20	22	2	4	28	19	0	8	27	13	1	9	23	23	2	11	36	114
	立山町/10/2/1	1	0	1	2	2	1	0	3	5	0	0	5	5	0	0	5	15
	舟橋村/1/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大沢野町/4/1/3	0	1	1	2	0	0	1	1	1	0	3	4	0	0	1	1	8
	細入村/2/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2
	滑川市/7/2/2	4	0	0	4	2	0	0	2	2	0	0	2	3	0	0	3	11
	大山町/4/1/1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	3	1	0	0	1	5
	婦中町/7/3/2	3	1	1	5	4	0	0	4	4	1	0	5	2	0	1	3	17
	山田村/1/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	上市町/7/1/1	2	1	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	5
	八尾町/8/2/1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	計	33	5	7	45	28	1	9	38	31	2	12	45	37	2	13	52	180
高岡地区	高岡市/26/11/15	4	1	4	9	5	0	1	6	6	0	4	10	5	0	4	9	34
	新湊市/8/4/1	3	0	2	5	2	1	1	4	2	2	1	5	4	0	0	4	18
	氷見市/21/7/2	4	0	0	4	7	1	0	8	3	1	0	4	3	0	0	3	19
	大門町/3/1/1	2	1	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5
	下　村/1/0/0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	4
	大島町/1/0/0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	3
	小杉町/6/2/1	4	0	0	4	3	1	0	4	2	0	0	2	2	0	0	2	12
	計	19	2	6	27	18	4	2	24	15	3	5	23	17	0	4	21	95
砺波地区	砺波市/7/3/3	2	0	1	3	1	0	1	2	1	0	0	1	0	1	0	1	7
	福光町/4/2/1	1	1	0	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	5
	小矢部市/6/4/3	2	1	1	4	1	1	1	3	1	0	0	1	2	0	0	2	10
	庄川町/1/1/0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	井波町/1/1/1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	4
	平　村/2/1/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	上平村/1/1/0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	利賀村/1/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	井口村/1/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	2
	福野町/1/1/1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	3
	城端町/1/1/0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	3
	福岡町/2/1/1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	8	2	4	14	4	2	3	9	4	1	1	6	4	3	1	8	37
魚津地区	魚津市/13/2/4	2	0	0	2	3	0	1	4	3	0	2	5	3	0	1	4	15
	黒部市/10/3/2	2	1	2	5	5	1	0	6	3	0	1	4	5	1	0	6	21
	宇奈月町/4/1/0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
	入善町/7/3/1	1	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	2	6
	朝日町/5/1/1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	1	1	0	2	6
	計	5	1	3	9	8	1	1	10	11	1	4	16	11	2	1	14	49
	合計	65	10	20	95	58	8	15	81	61	7	22	90	69	7	19	95	361

※小/中/高校数は平成８年度のもの

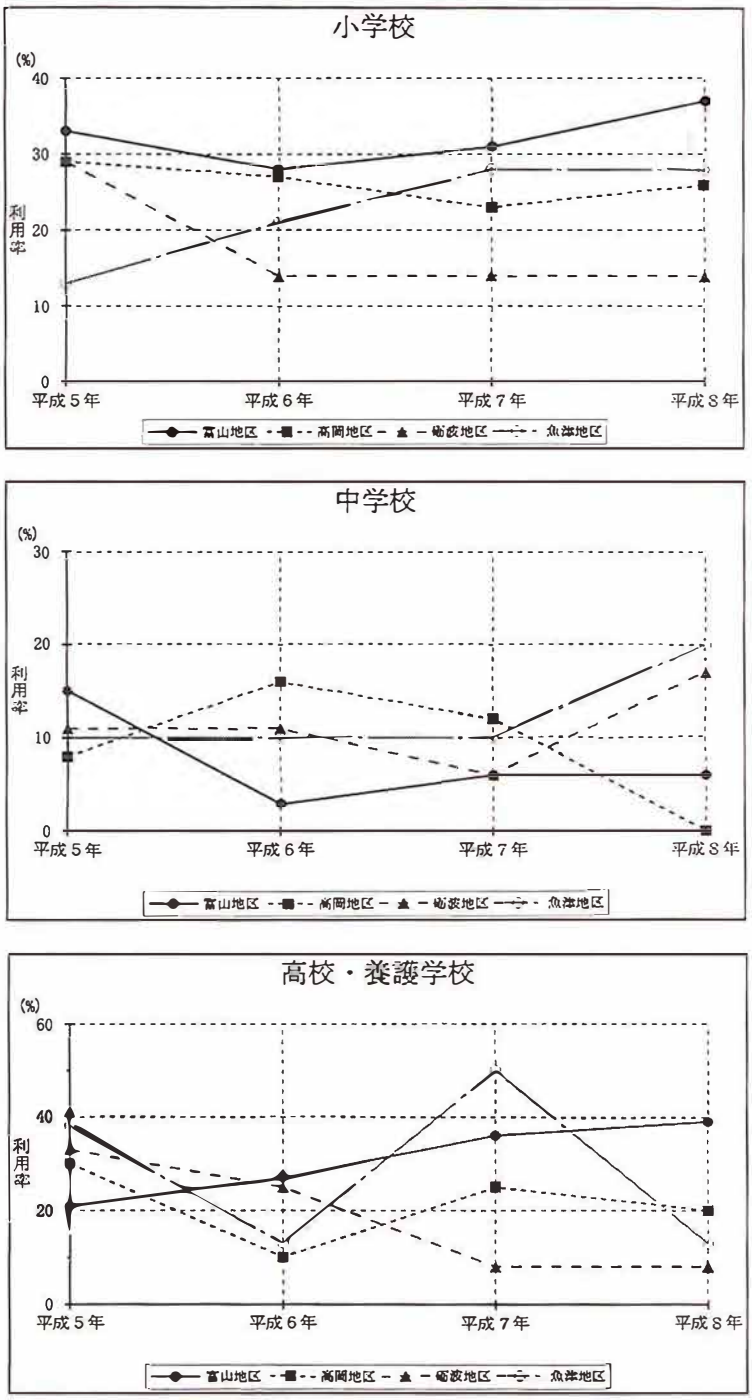

図８　県内地区別利用率の推移（小、中、高・養別）

2.2　考察

山岳映像イベントでは対象者をしぼり、事前準備から事後までの活動の流れの中で多彩な広報活動を行った。その活動内容をあげると、県広報誌への案内掲載、県内マスコミ関係への情報提供、山岳雑誌への案内掲載、チラシ配布、山岳連盟への協力依頼、県山岳関係者に案内ハガキ郵送、友の会・ボランティアに連絡、新聞社個別訪問、ラジオ番組出演、地元各戸への案内状配布などである。この中でも、山岳関係者を含め山全般に関心のある一般市民を対象の中心として、チラシ配布計画や山岳関係団体への広報に重点をおいた。また、広報の方法などのチェックを参加者のアンケート調査から考えてみた。図５のイベント周知の広報媒体別分布では、「イベントチラシ」と「新聞」「山岳団体からの案内」が高い。そして図６のチラシ受け取り場所別分布では、「山岳関係団体」「県内主要施設」での受け取りが高い。また、山仲間などからの口コミも以外と多かったこともわかった。当日の様子は、会場は定員250名ほどの施設であるが、１日目が230名、２日目が235名とほぼ満員状態であり、参加数はこれまでの当館イベントと比較しても多かった。また、表３から当日の参加者は県内各地から集まっていたこともわかる。これらのことから、今までおこなってきた広報とは違い、対象者をしぼり、チラシ配布やマスコミへの情報提供など様々な広報活動の工夫をしたことが多くの参加者があった大きな要因であったと考えられる。さらに、数社のテレビ局のディレクター、カメラマンなどが、一般の参加者のひとりとして来場していた。このことからも、マスコミ関係者にも広く周知され、興味がもたれる内容であったことがうかがわれる。そのほか、当館への問い合わせや会場への直接の問い合わせも多かった。

次に、学校教育に関しは、１年間の広報活動の流れと県内学校利用状況データーの分析から広報活動を考えてみた。図７のような活動を１年間を通しておこなってきた。そして、県内の小・中学校、高・養護学校の過去４年間の当館の利用状況のデーターベース（表４，図８）を作成し分析してみたところ、次のことがわかった。

- 小学校は、当館がある富山地区の利用率が高い。また、富山・魚津の両地区は増加傾向にある。一方砺波地区は、平成６年度以降15％以下と低いままである。
- 中学校は、各地区とも利用率が低い。
- 高校、養護学校は、富山地区の利用率が比較的高く、年々増加してきている。一方、高岡・砺波・魚津の各地区の利用率は低い。

このように小学校、中学校、高校・養護学校との間に、また地区によっても利用率に差がある。また、当館から離れている地区の学校の利用率も低い。つまり、全般的に、学校教育の現場への広報活動の工夫と、博物館教育に対する認識の徹底を図る必要があ

ると考える。

おわりに

当館の実施している広報活動をもとに、その現状と課題を考えてみたことは、今後の広報のあり方を考えていくうえで非常に有益であったと思っている。特に、今回のような、イベントの最初の段階から終わりまでを計画的に広報を実施したのは初めての試みであった。また、学校団体の利用状況のデーターベース化を図り、それを分析したことにより、今後の学校教育機関に向けての広報活動対策の参考にすることができた。

今後は、それぞれの事業ごとに、対象者をしぼったり、広報活動のやり方を変えたりするなどのきめ細かな広報活動の展開と、先を見通した計画的な広報を確立していくことが大切である。また、インターネットと結んだ広がりのある広報の情報管理システムの開発が必要であると考えている。つまり、広報活動は最も基礎的な博物館の教育普及活動の一つであるという認識のもとに、博物館を周知させるための活動や事業を知らせるための活動を、計画的・継続的・組織的に展開していくことが当館の今後の大きな課題である。

註

1）新聞広報の「県からのお知らせ」が毎月第2、最終土曜日に、北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日の各新聞社に掲載されている。テレビの広報番組は、「こんにちは富山県です（北日本放送毎週日曜日）」「112万人のひろばクイズ！フォーカス・イン（富山テレビ毎週日曜日）」「ふるさとトーク（チューリップ゜テレビ゛毎週土曜日）」などがある。ラジオの広報は、「ふれあいホットライン（FMとやま毎週月～金曜日）」がある。その他にもテレビ・ラジオによるスポット的な「お知らせ」が随時行われている。

広報誌は、「県広報とやま」が毎月1回発行。県内の公的機関、金融機関、理容院、美容院などに置かれている。

2）平成7年7月7日に当館の野外施設「まんだら遊苑」がオープンした。このことにより、例年とは違い6，7，8月に施設案内記事が集中している。

3）県内教育事務所は、富山・高岡・砺波・魚津の4管内にわけられている。

引用文献・参考文献

土橋幸男（1996）
『広報100辞典』電通
大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊編（1996）
『ミュージアム・マネージメント－博物館運営の方法と実践』東京堂出版
小宮和行（1989）
『東京ディズニーランド驚異の経営マジック』講談社
佐々木亨（1993）
「“ミュージアム・マーケティング”は博物館運営の救世主となるか」
『北海道立北方民族博物館研究紀要２』北海道立北方民族博物館
佐々木亨（1995）
「ミュージアムのマーケティング・プロセスモデル構築に向けて（１）」
『北海道立北方民族博物館研究紀要４』北海道立北方民族博物館
国立民族学博物館編（1984）
「第９章広報」『国立民族学博物館十年史』国立民族学博物館
倉田公裕監修（1996）
「広報活動（佐々木和博）」『博物館学辞典』東京堂出版